



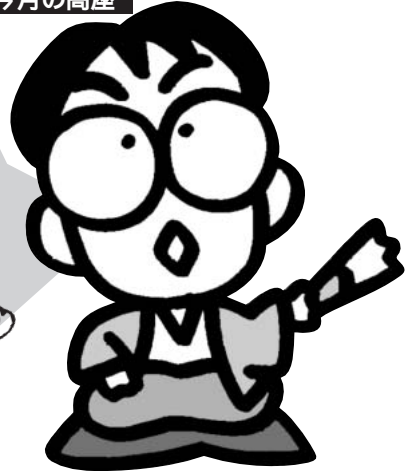
We Love インターネットで見つけたCOOL&FOOLが大集合 Internet People

このコーナーは、インターネットビブルの皆さんが作るページです。話題のインターネットビブル、ネットワークのこぼれ話、読者のサーフィン情報など、読者のみなさんの投稿と編集部が日頃の取材で集めたネタから旬の話題を提供します。たくさんの人の参加をお願いします。

Let's Access!!

Shouting!

今月の高座



2000ip

世論調査に「あなたの周りにメールから始まった恋愛がありますか?」というやわらかいテーマはどうでしょう? 本当はこれを時間軸上に並べてネットの成長と比較してみたいのです。先日、アメリカでは「インターネット離婚」(メールで密会の約束をしているところを夫に見つかった妻が離婚された事件?)があったし、パソコン通信の恋愛をテーマにした森田芳光監督の映画『ハル』も公開されています。私自身、同僚の女性が3年ほど前に出張先でなにげなく交わしたメ

ールアドレスからうまくひっかけられて結婚したことがあり、また、社内メールも普及してきて、そろそろ、若い社内恋愛のやつらはこっそりよろしく使ってやがんだろーなーとオヤジのような想像をすることもあります。だから、最近ネットを介して始まった人との出会いが顔対顔の結婚とか友達とかに変わっていくという、そういう人の数も増えてるだろうな、そのへんの変化がわかったら面白いな、と考えました。(Nobuo lizuka)

編集部



インターネット利用者の男女比を見ると、極端に男アマリ。しかも男性利用者は高学歴で一流メーカー勤務が多いらしく、女性には大変有利だという説が編集部の男性の間ではささやかれています。が、「女性の参加率が低いコミュニティにいい男がいるだろうか」という女性編集者の声もあります(ごめんなさ~い)。さて、パソコン通信で知り合って結婚したという話はもう珍しくありません。そんな新婚カップルの声を聞いてみましょう。

新婚さん



知り合ったのは、趣味で書いている小説を投稿する会議室です。会議室の催しで実際に会ったときお互いの作品について話し、その続きを電子メールでしようと言ったのが交際の始まりです。当時は家が500kmも離れていたし、仕事も忙しかったので、メールがなければ交際が続けられなかったと思います。最近ホームページも見っていますが、インタラクティブなしなかけがあれば、出会いを生むかもしれませんね。(神奈川県在住、K.Yさん)

Chatting!

声を聞かせて

最近、よく某大手プロバイダーの電子掲示板を利用するのですが、近頃、勝手に他人の掲示内容についてあれこれと人の傷つきそうなことを同じ掲示板に書いてみたりする人が増えています。たとえ、知らない人であっても、言っていることと悪いことがあると思います。せっかくインターネットがブームになっていい方向へ進んでいるのに、一方でそういうことをしてインターネット全体の質を下げている利用者には、大変腹立たしく思います。(Yuki)



3月号のShoutingにIGS (Internet GoServer) の記事が紹介されて以来、多くの方からもっと詳しい情報がほしいとの問い合わせを受けました。そこで、今回は参加のための資料の所在を紹介します。

まず、bigbearさん(大熊さん)のホームページ (<http://www.st.rim.or.jp/bigbear/>) を訪問し、ニフティサーブのみつばちさん作『IGSの歩き方』を見ていただくか、平岡さんのホームページ (<http://www.bios.t.u-tokyo.ac.jp/hiraoka/go.html>) から『IGS入門』を見てください。大変よくできています。英語が苦にならない人は次の2つをどうぞ。

<http://www.well.com/user/mmcadams/igs.howto.html>

または

<http://www.netpoint.net/gray/go/go.html>
 なお、暮会所サーバーを立ち上げるのに、無償でサーバーや回線を提供していただける篤志家を求めています。お心当たりの方は、yoshi@da2.so-net.or.jpまで電子メールをください。(吉川 公)



布袋寅泰のメーリングリストがオープンしました。まだ名前は決まっていませんが、とってもCOOLでHOTなメーリングリストになると思います。詳しくは、dolphin@shizuokanet.or.jpまで電子メールでお問い合わせください。(dolphin)



ネットサーフ疲れを倍加させる、つまらないギャグを考えてみました。まずは、インターネットネタから。

B級翻訳ソフト「もう英和」

青春の検索エンジン「森田検索」

学生の特権「ダイガクアップ接続」

ついでに、パソコンネタ。

殺人的スピード、486VX

PippinよりBeppin

おじゃましました。(Tamiya Onodera)



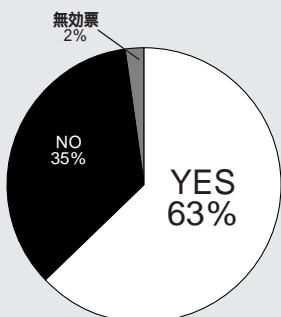
Thinking!

インターネットマガジン世論調査

テーマ

原発は必要か? <結果報告>

URL <http://home.impress.co.jp/magazine/inetmag/yes-no/>



インプレスWWWサーバーのインターネットマガジンのコーナーではさまざまな社会問題について、より多くの個人の意見を聞いたみたいという趣旨のもと、世論調査を実施しています。お答えいただいた方全員に20iP進呈します。あなたの意見を聞かせてください。

以下の世論調査結果を公開中

宗教法人法は改正すべきか?

NTTは分割すべきか?

夫婦別姓に賛成か?

原発は必要か?

次のテーマ 男女雇用機会均等法は守られていると思いますか?

We Love Internet Peopleの宛先電子メールアドレスは

ip-box@impress.co.jp

WWW情報、インターネットに関する意見、面白い企画、メーリングリストの会員募集、何でもいいので送ってください。インターネットポイント(P332)発行中。

小さいけど面白いゲームを作っている

まる一う2号こと上野亨さん



Q: インターネットはどんなきっかけで始めたんですか。

上野: もともとパソコン通信大好き人間で、パソコン通信は昔からやっていたんです。まだ、ニフティサーブとかPC-VANのない、日本語は半角カタカナしか通らないような頃です。結局ニフティに落ち着いて、ディレクターの会議室をはじめ、ROMを含めると20~30の会議室を今でも巡回しています。あとは、ホームパーティ(HP)とかパーティオで、漫画家の藤原カムイさんをはじめ、いろんな人と遊んでいます。釣りとかキャンプとかオートバイとか好きなんです。そんな中で、インターネット、インターネットって騒ぐのでやってみたのが最初です。ベッコアメが始まってからだから、まだ1年くらいですね。

Q: インターネットでは最初どんなことをしていたんですか。

上野: 一番最初にホームページを開いたのは、藤原カムイさんとネットワークで漫画が描けないかという話をしたのがきっかけ

です。僕も晴海のコミケとか行っていたようなので、ネットワーク上で意見を集めて、作家を刺激して連載小説を書くというのにはよくあるけど、ホームページなら漫画でもできるだろうというので、試しに始めたのが「福神町」なんです。

Q: 今の上野さんのページはショックウェーブがメインになっていますよね。

上野: それから、ディレクター周りのこともやってみようかなという気になって、ちょこっと載っけてみたんです。最初は、ゲームを動作させるメインの部分とそれぞれのゲームファイルに分けて載せて、ダウンロードしてから遊ぶという形でした。今でもベッコアメにはその形のものも残っています。その頃から、マクロメディアからショックウェーブが出るという話は聞いていて、出たらすぐにもホームページ上で遊べる形に切り換えるつもりでいました。

Q: 最初にショックウェーブのゲームとして登場したのはアメリカのサイトでしたよね。

ネットスケープナビゲーターのプラグイン「ショックウェーブ」によって、オーサリングツール「ディレクター」で作ったアニメーションをインターネット上で再生することができるようになった。まる一う2号こと上野亨さんは、ショックウェーブでホームページを提供している数少ない日本人の1人だ。ショックウェーブのページでは、ロゴがアニメーションしたり、CD-ROMソフトのデモが見られたりといったものが多いが、まる一う2号さんが提供するのとはとても単純なゲーム。ひたすらクリックしまくって皿回しをするゲームなど、素朴だけど楽しいゲームがそろっている。どうしてこんなにはまってしまうページができたのか、その秘密をうかがった。

上野: 海外のディレクター使いの知り合いとかに、僕もこういうのをやっているから見てねというメールを出したりしてたんです。そうしたらすごく面白がってくれて、ショックウェーブにしると言われたんだけど、その頃はベッコアメはまだ対応していませんでした。じゃあファイルを送れというので、海外のサーバーに最初に載ったんです。あのサーバーをやっているのは、ディレクター使いのメーリングリストの関係者の方なんです。

Q: 海外で最初に認められたわけですね。ショックウェーブについてはどんなふうに思いましたか。

上野: ショックウェーブの登場はうれしかったですよ。プログラムのメインの部分が一番大きいんですが、それをショックウェーブがやってくれるわけですから。ショックウェーブというのはディレクターで作ったものをホームページに載せるだけの技術ですから、難しいことは何もない。ディレクターで作りさえすれば、どんなものでも

載っかっちゃう。

Q:登録されているゲームは小さなファイルのものが多くですね。

上野:僕の勤務している会社(凸版印刷)では専用線が使えますが、自宅ではついこの間まで9600bpsのモデムでしたし、ニフティ系の人間としては課金と電話料金にはシビアですから、ネットサーフィンとか、大きなファイルをゆっくり見たりする癖がなかなかつけられないんです。貧乏性なんです。自分で見るとき大きなファイルだと嫌なので、小さくしないと見てもらえないだろうというのがあるんです。マシンや回線が速くないといけないというんだと、地道に暮らしている人が参加できない。なるべくそういうことはなくしたいので、小さくしているんです。

Q:本業のほうでもディレクターを使っているんですね。

上野:日大芸術学部の映像の出身なんです。会社がビデオパッケージも始めるというので入って、最初はビデオマガジンや会社案内なんかを作っていました。元々コンピュータをいじっていたので、ディレクターを使うようになって、今は完全にそっちだけになっています。最近は子供向けのCD-ROMタイトルとかが多くて、ゲーム的な要素が不可欠なんです。相手は子供だから、ちょっとさわってやり方がすぐにわかって、しかも何回も楽しめるものにしなといけない。ホームページに出しているゲームには、そのときの没ネタなんかもあります。

Q:「皿回し」や「なす男」が評判がいいそうですね。ああいうゲームの発想はどこから生まれてくるんですか。

上野:ショックウェーブでもジャバでもホームページのゲームはパズルっぽいものが多いじゃないですか。パズルももちろん面白いし、ディレクターでのオーサリングに

はパズルが向いているんだけど、そういうのは今までにもいっぱい作ってきました。それで、ひたすらカリカリしたりこすり回したりするアクションゲームが作れないかと思ったんです。あれがアクションゲームかどうかはわからないけど、とにかく手首は疲れる。

Q:新しいゲームも考えていますか。

上野:やりたいネタはいっぱいあるんですけど、今本業のほうで忙しくて、なかなか取りかかれぬ。やろうと思ったら1日でできちゃうんですが、なかなか時間がない。本業もやらないと食っていけませんから。今、ディレクター使いの間でやりたいなと思っているのは10キ口勝負。でき上がったムービーファイルを10Kバイト以下にして、その中でどのくらい面白いゲームができるかを競い合うというのです。ディレクターというのは不思議なソフトで、プログラムルーチンがよくできていなくても面白いものができるし、そんなこと何も考えなくても単純にアニメーションとしてすば



らしいものができちゃう。どれがいいかというのが判定しにくいから、サイズの枠をはめて競争したらどうかということなんです。

Q:ほかに今後どんなことをやろうと思っていますか。

上野:CGIを使って、ゲームのハイスコア



まるー2号さんのホームページ福神町

URL <http://www.bekkoame.or.jp/uenknown/>

が残るようにしたいですね。マシンの性能に依存しないゲームを作らないといけないし、完全にやるには、自分でサーバーを管理しないと難しいでしょうけど、世界中の人が参加して、自分の名前がハイスコアなどで出たら面白いでしょう。ありとあらゆるゲームの記録を塗り替えていくさんがいるとか。

Q:面白そうですね。ところで、上野さんはどんな環境で制作をしているんですか。

上野:マシンはLC475です。メモリーは12Mバイト。こんなチープな環境で作ったCD-ROMが市販されているなんて、誰も思わないでしょうね。でも、インディゴでVRMLというページもいいと思うけど、僕は手書きの原稿でガリ版刷りとか、やっと貯めたお金でオフセット印刷で同人誌を作るという世界の人だったから、絵はギザギザだし、画面自体は素朴でブーなイメージでも面白いページを作りたいんです。そうじゃないと、シリコングラフィックス持っていないといいページが作れないということになっちゃいますよね。あ、でもディレクターもけっこう高いですね(笑)
(取材・文=鈴木康之)

Net Surfing!

読者が作るイエローページ

この春、環境がらっと変わった方も多いことでしょう。
新社会人のみなさん、仕事に追われても、たまには新サイトをチェックしてくださいね。

Why The Japanese Don't Drink Coke?

URL <http://www.word.com/archive/japan/japan.html>

自分のお気に入りのページはなんだか人に教えたくないものですが、ここは皆さんぜひひ行って、このコワさを分かち合ってください。英語がわからない私でも何やら恨みがこもっているのはよくわかります。まるで初めてバンコクへ行っていかわしい日本語に遭遇したような、寒々しい感じです。「ごめん、悪かった」と思いたいときに私はのぞいています。でも、とてもきれいに創っているページです。



(MANA YOSHIDA)

為替レートのページ

URL <http://www.dna.lth.se/cgi-bin/kurt/rates/>

世界の主要国間の為替レートを計算して教えてくれるホームページです。日本の円も含まれていますので、為替の換算をするのにとても便利です。



(堀井健一)

NAOMI Homepage'

URL <http://www.iac.co.jp/daccordo/naomihp.html>

全世界のNAOMIさんのホームページにリンクをはるといふまさに'NAOMI Homepage'です。このページを作っているのは、Naomi S.Smithさんという方で、私の名前もnaomiなので、ホームページにリンクをはらせて下さいとメールが来てびっくりしました。英語だったので、返事に苦労しました。しかし、'Naomi'という名前は、日本だけでなく全世界にある名前なのですね。しかし、私の名前とメー

ルアドレス、その他のNaomiさんのもどうやってわかったんでしょう。NetNewsの投稿などからでしょうか？



(金崎直美)

壮絶な死体写真集

URL http://www.zynet.com/grotesk/html/gotg_text_floorplan.html

これは壮絶です。Tasteless Treasures、America's Least Wanted、The Dead Files、Necrotica、Flatlandの5部構成で、見た感じAmerica's Least Wanted が最もライト、Necroticaがもっともヘビーでした。クリッカブルマップのInformation Boothも用意されていていたれりつくせりです。

(森田仁)



愛ちゃんとフーミンのページ

URL <http://www.unc.edu/bwdougl/ai.html>

URL <http://www.unc.edu/bwdougl/fumin.html>

North Carolina at Chapel Hill大学のBrad Douglasさんが作った、飯島愛ちゃんのページです。なぜか、日本には愛ちゃんをテーマにしたページがないみたいなので、Douglasさんがインターネットの飯島愛ファンということになるのでしょうか。グラフィックは少ないけれど、その分文章で日本で愛ちゃんに会えたことをうれしそうに書いているので、気持ちは伝わってきます。でも、飯島愛一筋の人かなと思っていたら、フーミンのページも準備中でした。最初に愛ちゃんのページから入るとフーミンのページにリンクでは行けないので、すぐにはわかりませんでした。

(池田正暢)



Why The Japanese Don't Drink Coke?

たたかうリンク!

URL <http://www1.meshnet.or.jp/WWW/H9/figh/>

「社会とたたかう!」「文化とたたかう!」などのカテゴリーごとに、何かと「戦って」いるページを集めたリンク。メキシコの農民反乱や、日本と韓国の領土問題など比較的「重い」ページから、辛口の個人日記ページまで幅広く収録しているのが特徴。「世界征服準備室」なんてのもありました。



ホームページツール集

URL <http://bcpub.com/>

BCWEBのホームページHtmlを選択すると「B.C Web html & web Tools & Pages」にいきます。HTML用のツールや素材を揃えたいなあという人にぴったりのサイトです。ツールはすべて英語版ですが、HTMLエディターはもちろん(私はCMedが気に入りました)、グラフィック関連やイメージマップ作成ツールなど一通り揃いますし、アイコン、バックグラウンドなどの素材も充実しているほうではないでしょうか。



(ONO)

impress.co.jp

TOP 10

発表!

インターネットマガジンページの アクセスランキング

URL <http://home.impress.co.jp/magazine/inetmag/>

インターネットマガジンのホームページも、もうすぐリニューアルします。
これまでの内容を2月中アクセスが多かった順に紹介しましょう。

1位 WWWナビゲーター

WWWサイトをキーワード検索できるディレクトリサービス。自由に登録できます。

2位 ソフトナビゲーター

ベッコアメと並んで個人向けプロバイダーの老舗となったリムネットの会員も強い。

3位 ホームページ

インターネットマガジンのホームページ。メニューアイコンのキャラクターたちをよろしく。

4位 マガジンナビゲーター

インターネットマガジンの目次。記事で参照したサイトすべてにリンクをはっています。

5位 Yellow Pages

本誌のイエローページに掲載したWWWサイトすべてにリンクをはっています。

6位 サーチエンジンカタログ

3月号の小冊子で紹介した世界のサーチエンジンのカタログです。検索したいときに便利。

7位 世論調査

毎月さまざまなテーマを設定しています。過去の調査で集めた読者の意見は一読の価値あり。

8位 インプレスからのお知らせ

毎月1回開催しているCU-SeeMe大会のお知らせや、インプレスダイレクトへのリンクなど。

9位 ドキュメントナビゲーター

HTMLの解説など、役に立つ文書ファイルを登録しているコーナーです。

10位 アンケート

電子メールやハガキでも行っているアンケートをウェブ上で回答・送信できます。

学校から、会社から、家庭から、インプレスサーバーはどこからアクセスしても面白い!

お茶の間の友・桃屋のCMに インターネットが登場?

編集部の話題は今、「ごはんですよ」でおなじみの桃屋のCM。なんとインターネット(らしきもの)が登場しているのだ。

ファーストシーンは時代劇風の町をバックに桃屋といえばかならず出てくるめがねをかけたのり平キャラクターが香具師として登場する。



「サアサア評判評判! 話のネタだよ、いいネタだよ!」

場面は変わってまためがねをかけた別の侍(平賀源内という設定)がパソコンらしきもの前で、つぶやいている。

「なに言ってるの。今や“いいタネ”は“イタネット”で注文するの!」

え!? ここでもう1度言う。

「イタネット!」

すると、なんとパソコンの画面から桃屋の製品「五目寿司のたね!」がぼーんと飛び出してきて平賀源内がキャッチする。

「ホラ来たいいいタネ、五目寿司のたね」

うーん、変なCM。インターネットと「イタネ」をかけたわけですね。ま、香具師だからいいか。それより五目寿司のたねがパソコンの画面から飛び出てくるシーンは信じる人は多いかもしれないなあ。さすがイタネットって…。

残念ながら、このCMは全国番組枠では3月24日で放送を終了。その後はローカル番組の放送枠で流れる予定ということだ。

マルチメディアアーティストオーディションで斗ヶ澤栄二さんが インターネットマガジン賞受賞

コンピュータで表現する新しいアーティストの発掘・育成を目的に、インプレスグループのリットーミュージックが開催している映像作品コンテスト「マルチメディア・アーティスト・オーディション」。3月1日、その審査発表会が、東京品川区の情報通信システムセンターAV&CCシステムズスクエアで行われた。応募総数136タイトル中、一次審査を通過した38タイトルの中から、さらに2次審査を通過した8つのノミネート作品が紹介され、見ごとグランプリに輝いたのは、コダマヒロミチさんの「MARUMERO」。イラストタッチの絵で構成されるインタラクティブストーリーで、賞金100万円が贈られた。協賛誌賞のひとつイ

ンターネットマガジン賞は、斗ヶ澤栄二さん作の「Internet Advertising Column」が受賞した。これはインターネットで展開する広告の形を映像でシミュレーションした作品だ。

▶インターネットマガジン賞の斗ヶ澤栄二さん。

リットーミュージックマルチメディアアーティストオーディション1996 最優秀作品発表会





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp